

平成26年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT26154 体感しよう！小さく生まれた子どもの命を救う・癒す・育てるケアの力



開催日：平成26年7月26日(土)
実施機関：山梨県立大学看護学部
(実施場所) (看護実践開発研究センター)
実施代表者：井上みゆき
(所属・職名) (看護学部・教授)
受講生：高校生22名
関連URL：<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/news/13223.html>

【受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点】

実施場所を新生児集中治療室(NICU)に見立て、保育器、コット、超低出生体重児や新生児のモデル人形、低出生体重児用の衣類を展示し、開講前に、実際にモデル人形に触れてもらった。講義には写真・DVDなどの実際の映像を使用し、実例をだしながら説明した。ランチョンセミナーでは、実施協力者の大学生が、大学生活、受験対策などの質問に応じた。

【当日のスケジュール】

時間 内容

- 10:00～10:30 受付 開始まで超低出生体重児や新生児のモデル人形に触れる
- 10:30～11:00 挨拶、オリエンテーション、科研の説明
- 11:00～12:30 「新生児集中治療室で小さな赤ちゃんが育つ」新生児科医師からの講義
- 12:30～12:40 クッキータイム
- 12:40～13:00 「新生児集中治療室を卒業した子どもの成長」母親のお話
- 13:00～14:20 ランチョンセミナー 自由な意見交換 (ランチ)
- 14:20～14:30 新生児モデル人形の人工呼吸、心臓マッサージの準備と手技の説明 新生児科医師・看護師
- 14:30～15:00 新生児モデル人形の人工呼吸、心臓マッサージの実習 高校生5-6名1グループ 大学生1名
- 15:00～15:30 学びの発表とまとめ、質疑応答
- 15:30～16:00 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)
- 16:00 終了・解散

【実施の様子】

実施場所を新生児集中治療室(NICU)に見立てNICUを模擬体験



保育器に手を入れると温かい



笑顔最高！



小さな赤ちゃんは慎重に抱っこ

＜新生児集中治療室で小さな赤ちゃんが育つ＞
寺沢大祐医師からの講義



高校生に語りかけながら、
理解を促し講義が進められた。

＜新生児集中治療室を卒業した子どもの成長」母親のお話＞
実施責任者: 井上が母親を紹介



920gで生まれたわが子が高校生となった
体験談を成長過程の写真で説明した。

＜新生児モデル人形の人工呼吸、心臓マッサージの実習＞



医師と男子大学生に
人工呼吸を教えてもらって挑戦



人工呼吸が上手に出来て
大学生と高校生から拍手



ペアになって人工呼吸と心臓マッサージに挑戦



未来博士号授与

【事務局との協力体制】

事務局には広報活動、参加申し込み、連絡調整等の対応していただき、実施者は企画内容の準備に専念することができた。

【広報活動】

山梨県立大学のホームページ、大学内のポスターの掲示、山梨県内の高校に本企画のプログラムを郵送した。広報活動後約1週間以内で満席となった。

【安全配慮】

参加者、実施協力者が保険に加入するとともに、受講生5-6人に対して一人の割合で大学生を配置した。猛暑日のため、熱中症予防に備え、飲料水等を講義開始前と昼食時、2回に分け配った。また受講生、実施者ともに自由にお茶等が飲める環境を整えた。

【今後の発展性・課題】

受講者、受講者の保護者、実施協力者から、子どもの生命の尊さを知る有効なプログラムであるため、来年度も継続してほしいとの要望があった。また、広報活動後1週間以内で満席となり、参加できない高校生もいたため、受講者数を増やし、継続して実施したいと考えている。しかし、受講者数を増やすことによる、①広い実施場所の確保、②人口呼吸・心臓マッサージに使用するモデル人形の購入に伴う財源が課題である。

【実施分担者】

田淵和子 山梨県立大学看護学部 准教授
飯島梢 山梨県立大学看護学部 助手

【実施協力者】

6名

【事務担当者】

高野あさみ 山梨県立大学 池田事務室・主事